



平成31年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成31年4月26日
東

上場会社名 京王電鉄株式会社 上場取引所
コード番号 9008 URL <https://www.keio.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 紅村 康
問合せ先責任者 (役職名) 経営統括本部経理部 経理担当課長 (氏名) 村上 公彦 (TEL) 042-337-3135
定時株主総会開催予定日 平成31年6月27日 配当支払開始予定日 平成31年6月28日
有価証券報告書提出予定日 平成31年6月27日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期の連結業績(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | |
|--------|---------|-----|--------|-----|--------|-----|---------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 31年3月期 | 447,508 | 2.9 | 40,078 | 4.0 | 39,281 | 9.9 | 27,213 | 13.9 |
| 30年3月期 | 434,697 | 3.7 | 38,537 | 1.5 | 35,728 | 1.3 | 23,897 | 12.9 |

(注) 包括利益 31年3月期 21,897百万円(△15.0%) 30年3月期 25,747百万円(0.5%)

| | 1株当たり 当期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益 | 自己資本 当期純利益率 | 総資産 経常利益率 | 営業収益 営業利益率 |
|--------|----------------|---------------------------|----------------|--------------|---------------|
| | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 31年3月期 | 222.87 | — | 7.6 | 4.4 | 9.0 |
| 30年3月期 | 195.71 | — | 7.0 | 4.1 | 8.9 |

(参考) 持分法投資損益 31年3月期 22百万円 30年3月期 △129百万円

当社は平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|--------|---------|---------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 31年3月期 | 889,341 | 368,022 | 41.3 | 3,011.54 |
| 30年3月期 | 889,135 | 352,241 | 39.6 | 2,882.39 |

(参考) 自己資本 31年3月期 367,717百万円 30年3月期 351,953百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 期末残高 |
|--------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 31年3月期 | 60,620 | △47,608 | △20,376 | 57,934 |
| 30年3月期 | 62,713 | △71,267 | 17,384 | 64,469 |

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | | 配当金総額 (合計) | 配当性向 (連結) | 純資産 配当率 (連結) |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|---------------|--------------|--------------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 | | | |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 百万円 | % | % |
| 30年3月期 | — | 4.50 | — | 25.00 | — | 5,800 | 24.3 | 1.7 |
| 31年3月期 | — | 25.00 | — | 25.00 | 50.00 | 6,105 | 22.4 | 1.7 |
| 32年3月期(予想) | — | 25.00 | — | 27.50 | 52.50 | | 22.5 | |

平成30年3月期の1株当たり配当金につきましては、第2四半期末の中間配当金は株式併合前の金額、期末配当金は株式併合後の金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。なお、株式併合後の基準で換算した平成30年3月期の1株当たり年間配当額は47円50銭となります。

3. 平成32年3月期の連結業績予想(平成31年4月1日～平成32年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------|---------|-----|--------|-----|--------|------|-------------------------|-----|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 226,300 | 4.0 | 24,300 | 2.8 | 23,500 | △1.1 | 16,100 | 6.4 | 131.86 |
| 通期 | 460,000 | 2.8 | 43,300 | 8.0 | 41,900 | 6.7 | 28,500 | 4.7 | 233.41 |

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
 ② ①以外の会計方針の変更： 無
 ③ 会計上の見積りの変更： 無
 ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|--------|--------------|--------|--------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 31年3月期 | 128,550,830株 | 30年3月期 | 128,550,830株 |
| ② 期末自己株式数 | 31年3月期 | 6,447,914株 | 30年3月期 | 6,445,990株 |
| ③ 期中平均株式数 | 31年3月期 | 122,103,856株 | 30年3月期 | 122,107,886株 |

(注) 前連結会計年度の期首に株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

(参考) 個別業績の概要

1. 平成31年3月期の個別業績（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | |
|--------|----------------|-----|-----------------------|-----|--------|------|--------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 31年3月期 | 128,801 | 1.8 | 24,588 | 5.6 | 26,606 | 33.8 | 19,681 | 47.9 |
| 30年3月期 | 126,499 | 2.3 | 23,273 | 1.0 | 19,888 | △1.9 | 13,305 | 28.6 |
| | 1株当たり 当期純利益 | | 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 | | | | | |
| | 円 銭 | | 円 銭 | | | | | |
| 31年3月期 | 161.19 | | — | | | | | |
| 30年3月期 | 108.97 | | — | | | | | |

当社は平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 個別財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 | | 1株当たり純資産 | |
|--------|---------|---|---------|---|--------|---|----------|--|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 | |
| 31年3月期 | 734,187 | | 234,326 | | 31.9 | | 1,919.09 | |
| 30年3月期 | 743,364 | | 225,220 | | 30.3 | | 1,844.48 | |

(参考) 自己資本 31年3月期 234,326百万円 30年3月期 225,220百万円

2. 平成32年3月期の個別業績予想（平成31年4月1日～平成32年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|-----|---------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通 期 | 131,100 | 1.8 | 25,300 | 2.9 | 26,700 | 0.4 | 20,300 | 3.1 | 166.25 |

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】8ページ「(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 経営成績等の概況 | 2 |
| (1) 当期の経営成績の概況 | 2 |
| (2) 当期の財政状態の概況 | 7 |
| (3) 当期のキャッシュ・フローの概況 | 7 |
| (4) 今後の見通し | 8 |
| 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 | 8 |
| 3. 連結財務諸表及び主な注記 | 9 |
| (1) 連結貸借対照表 | 9 |
| (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 | 11 |
| (3) 連結株主資本等変動計算書 | 13 |
| (4) 連結キャッシュ・フロー計算書 | 15 |
| (5) 連結財務諸表に関する注記事項 | 16 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 16 |
| (セグメント情報等) | 16 |
| (1株当たり情報) | 18 |
| (重要な後発事象) | 18 |

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

① 当連結会計年度の業績全般

・営業概況

当期のわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか、全体としては緩やかな回復基調が継続いたしましたが、米中貿易摩擦の影響などにより、企業収益に減速感が広まり、先行き不透明な状況が見られました。

このような情勢のもとで、当社グループは、「京王グループ中期3カ年経営計画」の初年度として、戦略投資案件の収益化および事業の選択と集中など、“成長の実現”に向けた諸施策を推進してまいりました。

これらの結果、当連結会計年度の経営成績は以下のとおりとなりました。

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減額 | 増減率 |
|---------------------|---------|---------|--------|------|
| | | | | % |
| 連結営業収益 | 434,697 | 447,508 | 12,810 | 2.9 |
| 連結営業利益 | 38,537 | 40,078 | 1,540 | 4.0 |
| 連結経常利益 | 35,728 | 39,281 | 3,552 | 9.9 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 23,897 | 27,213 | 3,316 | 13.9 |
| 連結E B I T D A | 74,802 | 76,731 | 1,928 | 2.6 |
| 連結減価償却費 | 35,860 | 36,248 | 387 | 1.1 |

(注) 連結E B I T D Aは、連結営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額により算出しております。

・業績

連結営業収益は、すべてのセグメントで増収となり4,475億8百万円（前期比2.9%増）、連結営業利益は、運輸業、流通業で増益となったことから400億7千8百万円（前期比4.0%増）となりました。連結経常利益は392億8千1百万円（前期比9.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は272億1千3百万円（前期比13.9%増）となりました。

なお、連結E B I T D Aは、767億3千1百万円（前期比2.6%増）となりました。

また、連結減価償却費は、362億4千8百万円（前期比1.1%増）となりました。

② 当連結会計年度の各セグメント別の概況

(単位：百万円)

| | 営業収益 | | | 営業利益 | | |
|------------|---------|---------|------|---------|---------|------|
| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減率 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減率 |
| | | | % | | | % |
| 運輸業 | 131,378 | 132,224 | 0.6 | 13,516 | 14,710 | 8.8 |
| 流通業 | 162,235 | 166,423 | 2.6 | 4,113 | 5,138 | 24.9 |
| 不動産業 | 44,565 | 50,004 | 12.2 | 9,445 | 9,433 | △0.1 |
| レジャー・サービス業 | 77,914 | 80,477 | 3.3 | 7,206 | 6,983 | △3.1 |
| その他業 | 64,616 | 65,191 | 0.9 | 5,410 | 5,247 | △3.0 |
| 計 | 480,711 | 494,320 | 2.8 | 39,692 | 41,514 | 4.6 |
| 連結修正 | △46,013 | △46,812 | — | △1,155 | △1,435 | — |
| 連結 | 434,697 | 447,508 | 2.9 | 38,537 | 40,078 | 4.0 |

(運輸業)

・営業概況

鉄道事業では、京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業について、事業主体である東京都とともに用地取得や駅舎デザインの検討など設計業務を引き続き進めたほか、高架橋の基礎杭工事などに着手しました。運行開始以来ご好評をいただいている座席指定列車「京王ライナー」については、高尾山の紅葉シーズンにイベント列車「Mt. TAKAO号」を運行したほか、2月のダイヤ改正により、朝間時間帯の都心方面への運行を開始するとともに、土休日の夕夜間時間帯の京王八王子・橋本方面への運行を拡大しました。ラグビーワールドカップ2019[™]および東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組みについては、会場の最寄り駅となる飛田給駅において、2番線でホームドアの使用を開始したほか、エレベーターの増設など駅舎のリニューアル工事を進めました。また、新線新宿駅および渋谷駅でホームドアを設置したほか、新宿駅においてエレベーターを増設し、安全性と利便性の向上をはかりました。自然災害への備えについては、高架橋柱や盛土などの鉄道施設の耐震補強工事や大雨・落雷対策工事を引き続き進めるとともに、大型台風通過後の運行再開時における線路や設備等の点検方法を見直しました。サービス向上策については、下北沢駅で、中央改札口を新設し、エスカレーターや旅客トイレなどのリニューアル工事を進めたほか、鉄道運行情報などのお客様へのご案内の強化を目的として、運賃表一体型デジタルサイネージなどの導入や対話型AIを搭載した窓口案内ロボットの試験導入を行いました。また、京王よみうりランド駅では、よみうりランドとのコラボレーション企画による駅装飾工事やコンコースなどのリニューアル工事を実施しました。環境への取組みについては、車両の消費電力削減効果に優れた新型VVVFインバータ制御装置の導入や、駅構内などの照明のLED化を引き続き進めました。

バス事業では、高速バスにおいて、訪日外国人旅行客の増加を受けて好調に推移している富士五湖線（新宿～富士五湖・富士山五合目）で運行回数を増やし、増収に努めたほか、羽田空港線（国分寺・府中～羽田空港）を西国分寺駅まで延伸し、利便性の向上をはかりました。このほか、新宿行き高速バスのトランクを活用した貨客混載による農産物の輸送の取組みについては、新たに伊那・飯田線（新宿～伊那・飯田）での輸送を開始しました。

(単位：百万円)

| 業種別 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減率 |
|-------|---------|---------|-----|
| | | | % |
| 鉄道事業 | 86,057 | 86,179 | 0.1 |
| バス事業 | 35,667 | 36,542 | 2.5 |
| タクシー業 | 12,926 | 13,022 | 0.7 |
| その他 | 2,599 | 2,646 | 1.8 |
| 消去 | △5,873 | △6,166 | — |
| 営業収益 | 131,378 | 132,224 | 0.6 |
| 営業利益 | 13,516 | 14,710 | 8.8 |

[鉄道事業輸送人員と旅客運輸収入]

| | | | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減率 |
|--------|-----|-----|---------|---------|------|
| | | | | | % |
| 輸送人員 | 定期 | 千人 | 396,434 | 402,729 | 1.6 |
| | 定期外 | 〃 | 273,808 | 275,259 | 0.5 |
| | 計 | 〃 | 670,242 | 677,988 | 1.2 |
| 旅客運輸収入 | 定期 | 百万円 | 35,782 | 35,852 | 0.2 |
| | 定期外 | 〃 | 46,751 | 46,407 | △0.7 |
| | 計 | 〃 | 82,534 | 82,259 | △0.3 |

・業績

鉄道事業では、雇用情勢の改善や沿線人口の増加などにより輸送人員は増加しました。一方、旅客運輸収入は、前年度3月に相模原線の加算運賃引下げを実施したことなどにより0.3%減（うち定期0.2%増、定期外0.7%減）となりましたが、「京王ライナー」の座席指定料金収入の増加などにより鉄道事業の営業収益合計は0.1%増となりました。また、バス事業では、路線・高速などで増収となりました。これらの結果、営業収益は1,322億2千4百万円（前期比0.6%増）、営業利益は147億1千万円（前期比8.8%増）となりました。

（流通業）

・営業概況

百貨店業では、「京王百貨店」新宿店において、引き続き集客力強化と客層拡大を目的として、中地階の惣菜売場や1階化粧品売場の改装を進めました。

ストア業では、共働きや一人暮らしの方をメインターゲットとして「京王ストアエクスプレス」府中店をオープンいたしました。

ショッピングセンター事業では、「京王府中ショッピングセンター」において“利便性+トレンド感”をコンセプトとした改装を進め、「ぷらりと京王府中」としてリニューアルオープンいたしました。また、「フレンテ南大沢」では、5階の「東京ミートレア」について、小さなお子様連れのお客様にもご利用いただきやすいよう、キッズスペースを新設するなど改装し、「南大沢駅まえダイニング 東京ミートレア」としてリニューアルオープンいたしました。

このほか、「アートマンアートマン コスメ」仙川店をオープンし、「ベーカリー&カフェ ルパ」府中店を改装オープンいたしました。また、「京王パスポートカード」では、「京王パスポートVISAゴールドカード」を新たに発行し、サービスの拡充に努めました。

（単位：百万円）

| 業種別 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減率 |
|--------------|---------|---------|------|
| | | | % |
| 百貨店業 | 88,356 | 89,535 | 1.3 |
| ストア業 | 48,462 | 50,327 | 3.8 |
| 書籍販売業 | 6,609 | 6,447 | △2.5 |
| ショッピングセンター事業 | 13,478 | 14,384 | 6.7 |
| その他 | 11,618 | 12,130 | 4.4 |
| 消去 | △6,290 | △6,402 | — |
| 営業収益 | 162,235 | 166,423 | 2.6 |
| 営業利益 | 4,113 | 5,138 | 24.9 |

・業績

百貨店業では、インバウンド売上が好調に推移したことなどにより増収となりました。また、ストア業およびショッピングセンター事業では、前年度に開業した店舗が寄与したことなどにより増収となりました。これらの結果、営業収益は1,664億2千3百万円（前期比2.6%増）、営業利益は51億3千8百万円（前期比24.9%増）となりました。

(不 動 産 業)

・営業概況

不動産賃貸業では、「京王笹塚ビル」をリノベーションし、「笹塚テラス」として住居や店舗区画の賃貸を開始するとともに、一部を中長期滞在者向けの宿泊施設「KARIO SASAZUKA TERRACE」として開業しました。また、新宿区西新宿の既存オフィスビルをリノベーションしたシェアオフィス「12 SHINJUKU」の賃貸を開始したほか、商業施設「仙川駅ビル」を改装し「フレンテ仙川」としてリニューアルオープンいたしました。

不動産販売業では、都心部で保有していた賃貸マンション「MODIER AKASAKA」および「広尾クアルト」をそれぞれ一棟販売しました。

このほか、都心部の100㎡を超えるマンション物件をリノベーションして分譲する事業「R100 TOKYO」の推進と賃貸資産の拡充を目的として、港区南麻布のハイグレードマンション「オパス有栖川テラス&レジデンス」の一部を取得しました。また、既存の建物をリノベーションし、宿泊者や地域の人々が交流できる場を備えたシェア型複合ホテルへと再生させる事業では、「RAKURO 京都」をオープンしたほか、「TSUGU 京都三条」が竣工し、開業に向けた準備を進めました。

(単位：百万円)

| 業 種 別 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増 減 率 |
|--------|---------|---------|-------|
| | | | % |
| 不動産賃貸業 | 34,743 | 35,497 | 2.2 |
| 不動産販売業 | 16,451 | 20,966 | 27.4 |
| その他 | 2,113 | 2,463 | 16.6 |
| 消去 | △8,742 | △8,922 | — |
| 営業収益 | 44,565 | 50,004 | 12.2 |
| 営業利益 | 9,445 | 9,433 | △0.1 |

・業績

不動産賃貸業では、賃貸物件の増加などにより増収となりました。また、不動産販売業では、投資用マンションの販売などが増加したことに加え、リノベーション物件の売上増などにより増収となりました。これらの結果、営業収益は500億4百万円（前期比12.2%増）、営業利益は不動産賃貸業において営業費用が増加したことなどにより94億3千3百万円（前期比0.1%減）となりました。

(レジャー・サービス業)

・営業概況

ホテル業では、「京王プラザホテル（新宿）」において、本館35階と36階を最上級客室フロア「プレミアグラン」として改装したほか、本館30階の客室を改装し、幅広いお客様にご利用いただけるようにバリアフリー設備を充実させた「ユニバーサルルーム」を増室しました。また、本館2階のスーパーブッフェ「グラスコート」をリニューアルオープンいたしました。「京王プレッソイン」については、五反田、池袋の2店において客室・共用部を全面リニューアルいたしました。さらに、宿泊特化型アップーミドルホテル「京王プレミアホテル 京都烏丸五条」を開業したほか、「京王プレミアホテル 札幌」が竣工し、開業に向けた準備を進めました。このほか、提携基本契約を締結している高山グリーンホテルの敷地において、客室を主体に宴会場を備えた新館の建設に着手しました。

広告代理業では、ラグビーワールドカップ2019[™]の年間プロモーションに関する企画・運営・広報業務を東京都から受注するなど、収益拡大に取り組みました。

このほか、テイクアウト専門台湾茶スタンド「happy lemon」京王新宿店をオープンしたほか、武蔵野台駅改札前に地域の事業者と協業して、地元産農産物などを取扱う物販店と飲食店からなる複合店舗「武蔵野台商店」をオープンいたしました。

(単位：百万円)

| 業種別 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減率 |
|-------|---------|---------|------|
| | | | % |
| ホテル業 | 51,428 | 54,633 | 6.2 |
| 旅行業 | 17,865 | 17,686 | △1.0 |
| 広告代理業 | 12,500 | 12,556 | 0.5 |
| その他 | 6,634 | 6,831 | 3.0 |
| 消去 | △10,513 | △11,231 | — |
| 営業収益 | 77,914 | 80,477 | 3.3 |
| 営業利益 | 7,206 | 6,983 | △3.1 |

・業績

ホテル業では、「京王プレッソイン」で前年度に開業した2店舗（東京駅八重洲、浜松町）が寄与したことなどに加え、「京王プラザホテル（新宿）」で客室単価の向上などにより増収となりました。これらの結果、営業収益は804億7千7百万円（前期比3.3%増）、営業利益はホテル業で開業に伴う費用が増加したことなどにより69億8千3百万円（前期比3.1%減）となりました。

(その他業)

・営業概況

子育て支援事業では、東京都認証保育所「京王キッズプラッツ多摩川」、「京王キッズプラッツ永福町」および「京王キッズプラッツよみうりランド」を本年4月から認可保育所とし、事業基盤の強化をはかりました。また、企業主導型保育所「京王キッズプラッツ多摩センター」について、本年6月の開園に向けた準備を進めました。

ビル総合管理業では、東京臨海高速鉄道（りんかい線）において国際展示場駅など4駅で旅客案内業務を受託するなど、収益基盤の強化をはかりました。

このほか、テレワークを導入するなど働き方改革を推進している企業向けに職住近接を実現する場を提供するとともに、利用者の交流・協働・創業を促す場として多摩市にサテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」を開業しました。

(単位：百万円)

| 業種別 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減率 |
|---------|---------|---------|------|
| | | | % |
| ビル総合管理業 | 25,367 | 25,845 | 1.9 |
| 車両整備業 | 10,499 | 10,100 | △3.8 |
| 建築・土木業 | 23,335 | 23,730 | 1.7 |
| その他 | 7,838 | 7,870 | 0.4 |
| 消去 | △2,422 | △2,356 | — |
| 営業収益 | 64,616 | 65,191 | 0.9 |
| 営業利益 | 5,410 | 5,247 | △3.0 |

・業績

ビル総合管理業では、メンテナンス業務の受注増などにより増収となりました。また建築・土木業では、完成工事高の増加などにより増収となりました。これらの結果、営業収益は651億9千1百万円（前期比0.9%増）、営業利益は建築・土木業において粗利益が減少したことなどにより52億4千7百万円（前期比3.0%減）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減額 |
|---------|---------|---------|---------|
| 総資産 | 889,135 | 889,341 | 206 |
| 負債 | 536,893 | 521,319 | △15,574 |
| 純資産 | 352,241 | 368,022 | 15,780 |
| 負債及び純資産 | 889,135 | 889,341 | 206 |

当連結会計年度末の総資産は、有形固定資産の増加などにより2億6百万円増加し8,893億4千1百万円となりました。

負債は、第28回無担保社債の償還や前受金の減少などにより155億7千4百万円減少し5,213億1千9百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上などにより157億8千万円増加し、3,680億2千2百万円となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減額 |
|------------------|---------|---------|---------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 62,713 | 60,620 | △2,093 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △71,267 | △47,608 | 23,659 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 17,384 | △20,376 | △37,760 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △427 | 830 | 1,258 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 8,402 | △6,534 | △14,936 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 64,469 | 57,934 | △6,534 |
| 有利子負債の期末残高 | 352,181 | 338,376 | △13,804 |

(注) 有利子負債は、借入金 + 社債により算出しております。

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、流入額は前連結会計年度に比べ20億9千3百万円減少し、606億2千万円となりました。

当連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、有形及び無形固定資産の取得による支出の減少などにより、流出額は前連結会計年度に比べ236億5千9百万円減少し、476億8百万円となりました。

当連結会計年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済や社債の償還による支出などにより、流出額は203億7千6百万円となりました。

これらの結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は579億3千4百万円となりました。

また、有利子負債の当連結会計年度末残高は、3,383億7千6百万円となりました。

(4) 今後の見通し

(単位：億円)

| | 平成31年3月期 (実績) | 平成32年3月期 (予想) | 増減率 |
|---------------------|---------------|---------------|-----|
| 連結営業収益 | 4,475 | 4,600 | 2.8 |
| 連結営業利益 | 400 | 433 | 8.0 |
| 連結経常利益 | 392 | 419 | 6.7 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 272 | 285 | 4.7 |
| 連結E B I T D A | 767 | 801 | 4.4 |
| 連結減価償却費 | 362 | 363 | 0.4 |

(注) 連結E B I T D Aは、連結営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額により算出しております。

(単位：億円)

| | 営業収益 | | 営業利益 | |
|------------|--------------|--------|--------------|--------|
| | 平成32年3月期(予想) | 対前期増減率 | 平成32年3月期(予想) | 対前期増減率 |
| | | % | | % |
| 運輸業 | 1,325 | 0.2 | 149 | 1.3 |
| 流通業 | 1,686 | 1.3 | 52 | 1.2 |
| 不動産業 | 548 | 9.6 | 101 | 7.1 |
| レジャー・サービス業 | 825 | 2.5 | 81 | 16.0 |
| その他業 | 678 | 4.0 | 58 | 10.5 |
| 計 | 5,064 | 2.4 | 443 | 6.7 |
| 連結修正 | △464 | — | △10 | — |
| 連結 | 4,600 | 2.8 | 433 | 8.0 |

平成32年3月期の連結営業収益は4,600億円（前期比2.8%増）を見込んでおります。セグメント別に見ますと、運輸業では、鉄道事業で輸送人員の増加や「京王ライナー」の座席指定料金収入の増加などにより増収を見込んでおります。流通業では、百貨店業やストア業の増などにより増収を見込んでおります。不動産業では、不動産販売業でリノベーション物件の売上増などにより増収を見込んでおります。レジャー・サービス業では、ホテル業で新規出店や前年度に開業した店舗の通期寄与などにより増収を見込んでおります。その他業では、建築・土木業で完成工事高の増加などにより増収を見込んでおります。

連結営業利益は433億円（前期比8.0%増）、連結経常利益は419億円（前期比6.7%増）を見込んでおります。親会社株主に帰属する当期純利益は285億円（前期比4.7%増）を見込んでおります。

なお、連結E B I T D Aは801億円（前期比4.4%増）を見込んでおります。

また、連結減価償却費は363億円（前期比0.4%増）を見込んでおります。

(注) 連結業績予想は、公表時現在において入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想と大きく異なる可能性があります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは鉄道事業を中心とした企業集団であり、日本国内において主要な事業活動および財務活動を行っていることから日本基準を採用しております。

今後のI F R S適用につきましては、国内企業のI F R S採用動向を踏まえつつ、検討を進めてまいります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成30年3月31日) | 当連結会計年度 (平成31年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 50,988 | 38,963 |
| 受取手形及び売掛金 | 39,033 | 45,144 |
| 有価証券 | 13,500 | 19,200 |
| 商品及び製品 | 16,089 | 12,977 |
| 仕掛品 | 21,976 | 23,031 |
| 原材料及び貯蔵品 | 2,158 | 2,159 |
| その他 | 6,332 | 6,677 |
| 貸倒引当金 | △51 | △45 |
| 流動資産合計 | 150,027 | 148,109 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 328,778 | 342,882 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 38,727 | 36,613 |
| 土地 | 227,366 | 228,209 |
| 建設仮勘定 | 36,872 | 28,413 |
| その他（純額） | 11,240 | 11,568 |
| 有形固定資産合計 | 642,985 | 647,687 |
| 無形固定資産 | 11,525 | 14,049 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 60,131 | 52,968 |
| 退職給付に係る資産 | 6,994 | 7,270 |
| 繰延税金資産 | 10,630 | 12,412 |
| その他 | 6,989 | 6,980 |
| 貸倒引当金 | △148 | △139 |
| 投資その他の資産合計 | 84,596 | 79,494 |
| 固定資産合計 | 739,108 | 741,231 |
| 資産合計 | 889,135 | 889,341 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成30年3月31日) | 当連結会計年度 (平成31年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 18,061 | 19,058 |
| 短期借入金 | 73,287 | 70,998 |
| 1年内償還予定の社債 | 10,000 | 20,000 |
| 未払法人税等 | 6,706 | 6,625 |
| 前受金 | 26,126 | 18,554 |
| 賞与引当金 | 2,811 | 2,907 |
| その他の引当金 | 1,842 | 1,739 |
| その他 | 68,646 | 72,895 |
| 流動負債合計 | 207,482 | 212,780 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 140,000 | 120,000 |
| 長期借入金 | 128,893 | 127,377 |
| 繰延税金負債 | 1,764 | 1,762 |
| 退職給付に係る負債 | 20,935 | 21,266 |
| その他 | 37,817 | 38,132 |
| 固定負債合計 | 329,411 | 308,538 |
| 負債合計 | 536,893 | 521,319 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 59,023 | 59,023 |
| 資本剰余金 | 42,010 | 42,011 |
| 利益剰余金 | 253,392 | 274,501 |
| 自己株式 | △19,530 | △19,542 |
| 株主資本合計 | 334,897 | 355,994 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 15,152 | 10,527 |
| 為替換算調整勘定 | 8 | 8 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 1,895 | 1,186 |
| その他の包括利益累計額合計 | 17,056 | 11,723 |
| 非支配株主持分 | 288 | 304 |
| 純資産合計 | 352,241 | 368,022 |
| 負債純資産合計 | 889,135 | 889,341 |

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日) |
|-----------------|--|--|
| 営業収益 | 434,697 | 447,508 |
| 営業費 | | |
| 運輸業等営業費及び売上原価 | 347,554 | 358,066 |
| 販売費及び一般管理費 | 48,606 | 49,363 |
| 営業費合計 | 396,160 | 407,430 |
| 営業利益 | 38,537 | 40,078 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 176 | 163 |
| 受取配当金 | 1,180 | 1,204 |
| 為替差益 | - | 831 |
| 持分法による投資利益 | - | 22 |
| 雑収入 | 959 | 903 |
| 営業外収益合計 | 2,317 | 3,125 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 3,702 | 3,431 |
| 為替差損 | 669 | - |
| 持分法による投資損失 | 129 | - |
| 雑支出 | 624 | 491 |
| 営業外費用合計 | 5,126 | 3,922 |
| 経常利益 | 35,728 | 39,281 |
| 特別利益 | | |
| 工事負担金等受入額 | 1,017 | 14,434 |
| 固定資産売却益 | 2,214 | 3,554 |
| その他 | 73 | 241 |
| 特別利益合計 | 3,305 | 18,230 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産圧縮損 | 1,935 | 14,382 |
| 固定資産除却損 | 769 | 998 |
| その他 | 886 | 1,988 |
| 特別損失合計 | 3,591 | 17,369 |
| 税金等調整前当期純利益 | 35,442 | 40,142 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 11,569 | 12,341 |
| 法人税等調整額 | △48 | 570 |
| 法人税等合計 | 11,521 | 12,911 |
| 当期純利益 | 23,921 | 27,230 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | 23 | 16 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 23,897 | 27,213 |

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日) |
|------------------|--|--|
| 当期純利益 | 23,921 | 27,230 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,260 | △4,627 |
| 退職給付に係る調整額 | 567 | △708 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | △0 | 2 |
| その他の包括利益合計 | 1,826 | △5,333 |
| 包括利益 | 25,747 | 21,897 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 25,724 | 21,880 |
| 非支配株主に係る包括利益 | 23 | 16 |

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|--------|--------|---------|---------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 59,023 | 42,010 | 234,989 | △19,497 | 316,526 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △5,494 | | △5,494 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | 23,897 | | 23,897 |
| 自己株式の取得 | | | | △34 | △34 |
| 自己株式の処分 | | 0 | | 2 | 3 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | — | 0 | 18,402 | △32 | 18,371 |
| 当期末残高 | 59,023 | 42,010 | 253,392 | △19,530 | 334,897 |

| | その他の包括利益累計額 | | | | 非支配株主持分 | 純資産合計 |
|-------------------------|------------------|----------|------------------|-------------------|---------|---------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 為替換算調整勘定 | 退職給付に係る 調整累計額 | その他の包括利益 累計額合計 | | |
| 当期首残高 | 13,892 | 9 | 1,328 | 15,229 | 264 | 332,020 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | △5,494 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | | | | 23,897 |
| 自己株式の取得 | | | | | | △34 |
| 自己株式の処分 | | | | | | 3 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | 1,260 | △0 | 567 | 1,826 | 23 | 1,850 |
| 当期変動額合計 | 1,260 | △0 | 567 | 1,826 | 23 | 20,221 |
| 当期末残高 | 15,152 | 8 | 1,895 | 17,056 | 288 | 352,241 |

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|--------|--------|---------|---------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 59,023 | 42,010 | 253,392 | △19,530 | 334,897 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △6,105 | | △6,105 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | 27,213 | | 27,213 |
| 自己株式の取得 | | | | △12 | △12 |
| 自己株式の処分 | | 0 | | 0 | 1 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | — | 0 | 21,108 | △12 | 21,097 |
| 当期末残高 | 59,023 | 42,011 | 274,501 | △19,542 | 355,994 |

| | その他の包括利益累計額 | | | | 非支配株主持分 | 純資産合計 |
|-------------------------|------------------|----------|------------------|-------------------|---------|---------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 為替換算調整勘定 | 退職給付に係る 調整累計額 | その他の包括利益 累計額合計 | | |
| 当期首残高 | 15,152 | 8 | 1,895 | 17,056 | 288 | 352,241 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | △6,105 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | | | | 27,213 |
| 自己株式の取得 | | | | | | △12 |
| 自己株式の処分 | | | | | | 1 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | △4,625 | 0 | △708 | △5,333 | 16 | △5,316 |
| 当期変動額合計 | △4,625 | 0 | △708 | △5,333 | 16 | 15,780 |
| 当期末残高 | 10,527 | 8 | 1,186 | 11,723 | 304 | 368,022 |

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日) |
|--------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 35,442 | 40,142 |
| 減価償却費 | 35,860 | 36,248 |
| 減損損失 | 743 | 518 |
| のれん償却額 | 404 | 404 |
| 退職給付に係る負債の増減額 (△は減少) | △155 | 19 |
| 退職給付に係る資産の増減額 (△は増加) | △528 | △985 |
| 販売用土地評価損 | 62 | 104 |
| 固定資産除却損 | 662 | 882 |
| 固定資産圧縮損 | 1,935 | 14,382 |
| 受取利息及び受取配当金 | △1,357 | △1,368 |
| 支払利息 | 3,702 | 3,431 |
| 工事負担金等受入額 | △1,017 | △14,434 |
| 固定資産売却益 | △2,214 | △3,554 |
| 退店補償金 | 105 | 730 |
| 営業債権の増減額 (△は増加) | 746 | △4,843 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △3,795 | 958 |
| 営業債務の増減額 (△は減少) | 1,067 | 237 |
| その他 | 5,184 | 2,718 |
| 小計 | 76,849 | 75,592 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,346 | 1,409 |
| 利息の支払額 | △3,786 | △3,472 |
| 退店補償金の支払額 | △105 | △730 |
| 法人税等の支払額 | △11,591 | △12,179 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 62,713 | 60,620 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形及び無形固定資産の取得による支出 | △76,528 | △57,866 |
| 有形及び無形固定資産の売却による収入 | 1,586 | 5,105 |
| 工事負担金等受入による収入 | 4,943 | 5,136 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △1,434 | △138 |
| 投資有価証券の売却及び償還による収入 | 196 | 15 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 | - | 144 |
| その他 | △31 | △4 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △71,267 | △47,608 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | △2,659 | △169 |
| 長期借入れによる収入 | 18,469 | 13,220 |
| 長期借入金の返済による支出 | △12,212 | △16,855 |
| 社債の発行による収入 | 39,777 | - |
| 社債の償還による支出 | △20,000 | △10,000 |
| 自己株式の取得による支出 | △34 | △12 |
| 配当金の支払額 | △5,492 | △6,101 |
| その他 | △462 | △458 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 17,384 | △20,376 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △427 | 830 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 8,402 | △6,534 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 56,067 | 64,469 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 64,469 | 57,934 |

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは沿線地域を中心に、その活性化につながる各種のサービスを多角的に運営、展開しております。

したがって、当社グループは、サービスの種類別のセグメントから構成されており、「運輸業」、「流通業」、「不動産業」、「レジャー・サービス業」及び「その他業」の5つを報告セグメントとしております。

「運輸業」は主に鉄道、バス等の旅客運輸業を行っております。「流通業」は生活関連を中心とした各種の小売業を運営しております。「不動産業」は不動産物件を賃貸ならびに販売しております。「レジャー・サービス業」はホテル業、旅行業等のサービスを提供しております。「その他業」はビル総合管理業、建築・土木業等の事業を展開しております。

2. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:百万円)

| | 運輸業 | 流通業 | 不動産業 | レジャー・サービス業 | その他業 | 合計 | 調整額 (注)1 | 連結 財務諸表 計上額 (注)2 |
|----------------------------|---------|---------|---------|------------|--------|---------|-------------|---------------------------|
| 営業収益 | | | | | | | | |
| 外部顧客への営業収益 | 129,074 | 158,720 | 41,737 | 73,084 | 32,080 | 434,697 | — | 434,697 |
| セグメント間の内部 営業収益又は振替高 | 2,303 | 3,515 | 2,828 | 4,829 | 32,536 | 46,013 | △46,013 | — |
| 計 | 131,378 | 162,235 | 44,565 | 77,914 | 64,616 | 480,711 | △46,013 | 434,697 |
| セグメント利益 | 13,516 | 4,113 | 9,445 | 7,206 | 5,410 | 39,692 | △1,155 | 38,537 |
| セグメント資産 | 402,581 | 108,133 | 207,722 | 136,503 | 30,577 | 885,517 | 3,617 | 889,135 |
| その他の項目 | | | | | | | | |
| 減価償却費 | 23,313 | 3,943 | 4,502 | 4,014 | 346 | 36,120 | △259 | 35,860 |
| のれんの償却額 | — | — | 404 | — | — | 404 | — | 404 |
| 減損損失 | 348 | 53 | 299 | 41 | 0 | 743 | — | 743 |
| 持分法適用会社 への投資額 | 2,814 | 2,302 | — | 166 | — | 5,283 | — | 5,283 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額 | 32,829 | 11,795 | 19,061 | 9,546 | 500 | 73,733 | △1,112 | 72,621 |

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△1,155百万円、減価償却費の調整額△259百万円、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△1,112百万円はセグメント間取引消去額であります。

(2) セグメント資産の調整額3,617百万円のうち、108,790百万円は全社資産(報告セグメントに帰属しない金融資産)であり、△105,173百万円はセグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

(単位:百万円)

| | 運輸業 | 流通業 | 不動産業 | レジャー・サービス業 | その他業 | 合計 | 調整額 (注)1 | 連結 財務諸表 計上額 (注)2 |
|----------------------------|---------|---------|---------|------------|--------|---------|-------------|---------------------------|
| 営業収益 | | | | | | | | |
| 外部顧客への営業収益 | 129,939 | 162,665 | 47,181 | 76,191 | 31,529 | 447,508 | — | 447,508 |
| セグメント間の内部 営業収益又は振替高 | 2,284 | 3,757 | 2,823 | 4,285 | 33,661 | 46,812 | △46,812 | — |
| 計 | 132,224 | 166,423 | 50,004 | 80,477 | 65,191 | 494,320 | △46,812 | 447,508 |
| セグメント利益 | 14,710 | 5,138 | 9,433 | 6,983 | 5,247 | 41,514 | △1,435 | 40,078 |
| セグメント資産 | 399,461 | 108,949 | 211,015 | 151,271 | 36,579 | 907,277 | △17,936 | 889,341 |
| その他の項目 | | | | | | | | |
| 減価償却費 | 23,212 | 4,108 | 4,488 | 4,363 | 371 | 36,543 | △295 | 36,248 |
| のれんの償却額 | — | — | 404 | — | — | 404 | — | 404 |
| 減損損失 | — | 52 | 391 | 73 | 0 | 518 | — | 518 |
| 持分法適用会社 への投資額 | 2,988 | 2,237 | — | 82 | 80 | 5,389 | — | 5,389 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額 | 24,360 | 3,191 | 11,605 | 16,276 | 661 | 56,096 | △949 | 55,146 |

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△1,435百万円、減価償却費の調整額△295百万円、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△949百万円はセグメント間取引消去額であります。

(2) セグメント資産の調整額△17,936百万円のうち、94,452百万円は全社資産(報告セグメントに帰属しない金融資産)であり、△112,388百万円はセグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

| | 前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日) |
|------------|--|--|
| 1株当たり純資産額 | 2,882.39円 | 3,011.54円 |
| 1株当たり当期純利益 | 195.71円 | 222.87円 |

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日) |
|---------------------------------|--|--|
| 1株当たり当期純利益 | | |
| 親会社株主に帰属する当期純利益(百万円) | 23,897 | 27,213 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | — | — |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円) | 23,897 | 27,213 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 122,107 | 122,103 |

4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前連結会計年度 (平成30年3月31日) | 当連結会計年度 (平成31年3月31日) |
|-------------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 純資産の部の合計額(百万円) | 352,241 | 368,022 |
| 純資産の部の合計額から控除する金額(百万円) | 288 | 304 |
| (うち非支配株主持分(百万円)) | (288) | (304) |
| 普通株式に係る期末の純資産額(百万円) | 351,953 | 367,717 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(千株) | 122,104 | 122,102 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。